

香川県が全国ワースト1
脱出を目指す「糖尿病受療率」。人口10万人当たりで何人が糖尿病治療をしているかという割合だ。

特定非営利活動法人「NPO法人」一香川糖尿病支援まんてがん理事長の石田俊彦（66）の役割は県が不名誉とらえるこの数字をさらりと引き上げることかもしない。「糖尿病患者が多い」という点では確かに戦士」だが、一方でちゃんと治療している人が多いといつ侧面もあり、そこはむしろ誇つていい

糖尿病検査に用いられるHbA1c。過去1~2カ月の平均血糖値が分かる

まんでがんの目標は、この検査を全県民が受けることだ。石田が管理栄養士などと一緒に街角に出向いて実施する「まんでがん診療室」では、「この検査だけでなく結果の説明、生活指導までその日のうちに1カ所で済ませる。

「通常の健康診断などで結果通知まで間隔がなく、結果が「要相談」「要治療」でも、病院に行かなければいけないことも多い」。まんでがんの活動で、検査や早期に治療を受ける人が増えたば、当然受療率は上昇する。まんでがんは糖尿病専門医、看護師、管理栄養士などが3月に設立。「まんで

「糖尿病県」脱却へ奔走

「香川糖尿病支援まんでがん」理事長

石田 俊彦氏



「患者とともに考える医療を目指したい」と語る石田理事長（高松市のキナシ大林病院）

いしだ・としひこ 1945年（昭和20年）、岡山県生まれ。70年岡山大医学部卒業。2000年に香川医科大学（現香川大学医学部）教授、07年4月～11年3月まで香川大学医学部付属病院長。11年10月からキナシ大林病院糖尿病センター長。香川大名誉教授。

や自作の川柳等で、しみながら事をつけてもいる。目指すじ目線に立つ医療機関だ。最初は部付属病院気威でもあるところの病院側である。「つづく」にケチでもか」。石田は時代の「恩返し」と呼んで警句。本

柳を用いて、薬確認した。30年にわたる臨病の結果を、息子の研究のために生かそうとした父への想いが、このは患者と同様のことだ。

そして、実は石田自身も相手でも同じ「軽い」糖尿病だ。「夜寝ても疑心暗鬼に元香川大医学長で糖尿病の権限で石田が来るといふらさが分かるという。

香川県で糖尿病といつて、その原因の一つとして、その病院の診療付けに来るの取り沙汰されるのが「うづきの出前相談」だ。旦下の県最大の通りであり、県民の間にうどん好きは多い。

きちんと予防、きちんと治療

がん」は「全部」といった意味の讃岐言葉で、糖尿病対策や予防などやれることは、まんべんやることを目指している。掲げるのは、「糖尿病県」「歩かん県」「野菜を食べん県」からの田は時に、患者に厳しく当脱却。啓発活動や検査以外にも、ウォーキングや糖尿病予防の料理教室など様々なイベントを開く考えだ。

ところが、ある看護師かこう、言われる。「患者とっては脅迫です」。以来、心がけているの「上から目線をやめる」とだ。まんでがんの講演も難しい話は抑え、クイ

らをすることなどが目的だ。のコ
に 石田の父も医師だったが
糖尿病を患い、5年前に心
臓疾患で亡くなった。遺言
には「病理解剖して、しつか
り見ておけ」。解剖に立ち
会つて、動脈の状態などを
（

ニャクや大根を食べ
いかすのをせなければ
んは大丈夫ですよ」
どん好きと同じ高さの
から、柔軟な笑顔が浮
きた。　|| 敬称略

きちんと予防、きちんと治療

精神科医者を読む日本の
ち、多くは専門医ではない
ため、難しい症例への助言
する。

で、恐る恐る聞いてみると、「先におでこ

たゞ一相手のことをき
氣で親身に考えると、き
い口調になることもある。

本か」、石田は病院長だった。時代の「恩返しの出前相談」。と呼んで警戒を和らげる。

た。『巨下の県最大の音
』あり、県民の間にも
ん好きは多い。

や自作の川柳を用いて、樂
しみながら櫻井病対策を身
につけてもうう工夫をして
いる。目指すのは患者と同
じ目標に立つことだ。

（註）「歴史一書」（昭和10年）

確認した。30年にわ
たる病の結果を、息子の死
ために生かそうとした
最期の遺志だった。

そして、実は石田

たる闇研究の父

支局 高松德高
知山島松
00000
88888
8987
- - -
8968
7453
2121
- - -
2023
3343
3484
4904